

水質環境目標値市民モニター・湧き水モニター

市民モニタリング通信

平成30年
秋号

秋も深まり、日も短くなってまいりましたが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか？

今回のモニター通信では、先日開催された第13回モニターセッションの様子をご報告させていただきます。

なお今年度の事務局(地域環境対策課水質地盤係)のメンバーは、菱井(係長)、櫻井、木綿、浅見、竹内、野村の6名となります。水質モニタリングのメイン担当は野村、湧き水モニタリングのメイン担当は浅見です。何卒よろしくお願いいたします。

第13回モニターセッションの様子

平成30年10月20日(土)、藤前干潟にて第13回モニターセッションを開催しました。

当日は、名古屋まつりや地域の運動会と重なったこともあり、参加者が少数となりましたが、晴天に恵まれ、気持ちの良い秋の日差しの中、藤前干潟に棲む生き物達を観察することができました。



← モニターセッション開始直後の様子です。

今回のモニターセッションの講師は、NPO法人藤前干潟を守る会の間部(まなべ)さん、平瀬さん、竹内さん、本市環境科学調査センターの榊原研究員でした。

モニターセッションが始まってから → 少し経ったときの様子です。

石の下には何がいたのかな？

この後、石をめくっているこの兄弟が大発見をします！

詳しくは次のページ(裏面)をご覧ください。



藤前干潟ではとても珍しい魚を発見！



発見されたトサカギンポ

頭にトサカ
が付いてる
んだよー

藤前干潟ではとても珍しい魚を発見しました。その名も**トサカギンポ**！

この魚は、カキの貝殻の隙間を住処としていて、産卵・子育てをふくめ、ほぼ一生をカキの群落（カキ礁）で生活します。

この珍しい魚を発見したのは、先ほどの兄弟！すごいですね！

ちなみに発見したときはカキ殻の中にいました。



← 見つけた生き物達を観察している様子です。

皆様がんばってくださったおかげで、コメツキガニ、ヤマトシジミ、ソトオリガイ（出汁が出て美味しいとのこと）、トビハゼなど色々な生き物を発見することができました。

この日は、発見できませんでしたが出ナギもいるそうです。

観察終了後、生き物達を干潟に返している様子です。 →

今回のモニターセッションではたくさんの生き物たちを観察することができました。

モニターセッションを通じ、ご参加いただいた皆様に色々なことを感じ取っていただけたならばとても嬉しいです！



ちょっと長いコラム ～水域の類型指定～

類型の指定ってよく聞くけど簡単にいうとどういうことなの？

水質汚濁の環境基準は、河川や海など公共用水域の水質を維持していくために望ましい基準として設定されたものです。河川では、水道や農業、工業といった利用目的などに応じて、**AA～Eまでの6段階の類型別**に、pHやDOなどの基準値が設定されています。水域ごとに類型をあてはめることを**類型の指定**といい、**市内水域の類型指定は、愛知県が行っています。**

例えば、名古屋市が水道水として利用している**木曽川はA類型**、農業用水として使用している**庄内川はD類型**です。この類型の指定は、必要に応じて見直されることとなっており、**来年度、愛知県が市内水域の類型を見直す予定と聞いています。**

水質モニターの皆様には普段、環境目標値の適合状況を確認する調査にご協力いただいておりますが、これは環境基準と同等以上の目標として名古屋が独自に設定したものです。

一例を挙げると、**堀川では、環境基準はD類型となりますが、環境目標値は、松重橋より上流になると、B類型に相当する☆☆☆、下流はC類型に相当する☆☆となります。**

<水域の環境基準>

	環境基準類型※1	水域名※2
きれい ↑	AA	
	A	木曽川(中下流)
	B(☆☆☆相当)	
	C(☆☆相当)	天白川
	D(☆相当)	堀川、山崎川、庄内川、新川、矢田川
	E	中川運河、荒子川

※1 ()内は水の汚れに関して相当する環境目標値の区分です。

※2 木曽川以外については、市内水域の類型を示しています。

発行元：環境局地域環境対策課水質地盤係 担当 野村、浅見

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 名古屋市役所東庁舎5階

連絡先：電話 052-972-2675 FAX 052-972-4155

E-mail: a2675@kankyokyoku.city.Nagoya.lg.jp